

酒田市男女共同参画推進センター

No.101

ウィズ・レター

目次 ▼男女共同参画週間▼ウィズ講座の実施報告▼令和2年度男女共同参画推進センター ウィズ事業▼家族みんなが笑顔になる“家事シェア”のススメの紹介



6月23日(水)から29日(火)の“男女共同参画週間”に合わせて「副市長からのメッセージ」が、市HPで発信されました!



副市長 矢口 明子

6月23日(水)から1週間は国の定める男女共同参画週間です。世界経済フォーラムが毎年公表するジェンダーギャップ指数で日本は156か国中第120位(2021年)、ジェンダー平等の進んでいない国と見られています。特に昨年来の新型コロナウイルス感染症の広がりにより、日本におけるジェンダー不平等の問題は一層顕在化したと言われます。

例えば、日本の女性はいわゆる非正規雇用労働者として働く割合が男性よりも高いため、感染拡大による収入減の影響は女性の方が大きかったこと、また日本では家事・育児等の負担が日頃から女性に偏っており、いわゆる「ステイホーム」で女性の負担がさらに増したことなどが指摘されています。

感染拡大の影響で顕在化したジェンダー不平等の問題を一過性の取組みではなく根本から解決するため、酒田市では「職場の意識啓発(誰もが家庭と両立しながら安定的に働ける職場を増やす)」「家庭の意識啓発(家事・育児・介護等を家族全員で分かち合う、又は外部のサービスを利用する)」と「女性の意識啓発(女性がスキルアップしやりがいのある仕事に就く)」の3本柱で施策を推進しています。詳しくは酒田市女性応援ポータルサイトをご覧ください。各種相談窓口もあります。

ジェンダー平等というと「女性だけにメリットがある」ととらえられがちですが、男性自身も男性に対する過度な期待や負担から解放され自由に生きられるようになることを目指すものです。また、(男女平等ではなく)ジェンダー平等という言葉は、LGBTの方たちも含めて平等という意味です。今年度の男女共同参画週間のキャッチフレーズ「女だから、男だから、ではなく、私だから、の時代へ」は、性別にかかわらず一人ひとりがその人らしく生きられるようにという意味が込められています。

酒田市男女共同参画センターウィズ(中町3丁目・交流ひろば内)では、男女共同参画週間中に様々な催しをしています。ぜひ一度お立ち寄り下さい。お待ちしております。

酒田市副市長 矢口 明子

男女共同参画パネル展を開催しました!

交流ひろばエントランスホールにて、男女共同参画週間に合わせて、「メディアウオッチ」のパネルを展示しました。また、山形県男女共同参画センターチェリア「男女共同参画早わかり」、国立女性教育会館ヌエック「男女共同参画統計学習パネル」の資料も展示しました。

テレビや新聞、ポスターなどから見えてきた、今までの“当たり前”を見直すきっかけとなりました。



ウィズ講座『そもそも“男”と“女”って?!』 ～性の多様性を知り、学んで、考えてみましょう～を開催しました!

6月26日(土) 【参加人数:20名】

講師:天童市民病院 産婦人科医長 金子 尚仁 氏

全ての人の個性が尊重されるために、「男と女」という性別について考え、正しく知ることを目的に、現役の産婦人科医師 金子尚仁先生より、ご講演いただきました。生物学的な性を中心に、性の多様性からジェンダーまで分かりやすくお話をいただき、参加者は興味深く学ぶことができました。

また、質疑応答では、たくさんの質問や意見が出され、多様な性についてさらに理解し、より深めることができました。また、参加者からは、「視野が広がり大変勉強になった」「性別に対して日本の法律を見直す必要性を感じた」「自分らしくみんなが生きられる日本になりますように」等と、男女共同参画社会の実現に近づくような前向きな感想があり、大変充実した講座となりました。



■■■ 金子尚仁先生の講座資料より ■■■

- これまで見てきたように、自然界では「オス/メス」という「性」は曖昧である。ヒトにおいても「生物学的な性(セックス)」あるいは「心理的・精神的な性」は多様であり、性自認や性指向が非典型的な人はわが国では6~8%程度存在すると考えられる。
- 一方、教育現場では男女は二分され、その違いが教え込まれるが、共通点についてはほとんど触れられない。そこでは「男女は違う」という幻想が叩き込まれ、区別や差別が生まれる。しかし、身長や体重、筋力の平均値に生物学的な男女差は多少あるが、能力や気質には男女差は無く、個人差の方が大きいとするのが最近の見解である。差があるとすれば、性周期があり妊娠、出産が可能なのは女性だけということぐらいである。
- また我々は物事を「白と黒」のふたつに分けた方が分かり易く、また安心でき、その間に灰色の部分があると混乱してしまう。ヒトの「性」についても同様で、男女に分けたり、大多数と LGBTQ+あるいは性的少数者などと二分することが多い。しかしヒトの性にはグラデーションがあり、「二分法」ではとらえきれない多様性を持っている。大切なことは、そもそも「人間は多様である」という原点に戻ることはないか。私たちも多様な存在のひとつであることを理解すべきである。
- 人は誰も相手の「生物学的な性」を確認してから恋愛感情を抱いたりすることはない。特に最近では「性」は外形だけでは判断できない。社会の中で生きていく上では「セックス」よりも「ジェンダー」が意味を持つてくるが、私たちが抱いている「男らしさ」や「女らしさ」、あるいは「男性像」や「女性像」は社会の中で作られるある種の「思い込み、イメージ」である。
- 社会の中でうまく生きていくためには、(1)日常生活あるいは教育現場における「隠れたカリキュラム」を無くすこと、そして(2)「性」にはグラデーションがあり、「二分法」ではとらえきれない「多様性」があることを理解し、(3)「性(別)役割分担」を見直して「性」を強く意識しない対処法を身につけること、かもしれない。

参加者の声 (アンケートから)

- 性は本当に多様性があると感じた。二分にした方が楽なのは、人間はカテゴライズが安心要素であるため納得できた。大切なのは、私たちの認知を変えることだと感じた。(30代女性)
- 生物学的な男女差はほとんど無いことはわかりましたが、社会的な男女差のずれは大きいと感じました。(50代男性)
- 性はグラデーションで、一概に2つに分けることはできないと改めて知ることができました。性別に対して日本の法律を見直していく必要性を感じました。自分らしくみんなが生きられる日本になりますように。(20代女性)
- 男女共同参画推進講座ということで、産婦人科の先生をお呼びしての講座。まさかこのような視点で一講座、お話しされるとは思わず、良い意味で期待を裏切られたといえますか、視野が広がり大変勉強になりました。(30代女性)
- 思春期になって、性に違和感を感じている生徒も多く、幼稚園や保育園からの環境、適切な教育が必要だと感じました。教科書にも LGBT や多様な性について項目があり、今回学んだことを生徒達とも一緒に考えていきたいと思います。(20代女性)

令和2年度 男女共同参画推進センターウィズ事業

ウィズ講座

8月29日(土) 参加者26人

『心理カウンセラーに学ぶ
コミュニケーションの極意』

～お互いに尊重する話法を学び、呼吸法でリラックスしよう～
講師：斎藤 みつえ 氏 (LUANA MITSUE スクール)
上級心理カウンセラー・丹田呼吸法セラピストマスター

心身ともに、いきいきと自分らしい充実した人生を送るために、コミュニケーションの意味を理解し、自分も相手も尊重する話し方を身につけて対等に表現する話法とリラックスできる呼吸法を学びました。



男性応援セミナー

2月13日(土) 参加者28人

『美味しいって言われてみたい！
こだわりのコーヒー講座』

第一部 講師：赤塚 宏之 氏 (株式会社東北萬国社)
第二部 講師：庄内てまりの会

第一部では、美味しいコーヒーの淹れ方を学び、自分だけのこだわりのコーヒーを見つけ、第二部では、家族と美味しいコーヒーを楽しむためには何かが必要か、寸劇からヒントを得ました。



ウィズ登録団体 研修会・情報交換会

3月17日(水) 参加者26人

『男女共同参画の視点で活動・交流・学び合い』
講師：伊藤 眞知子 氏 (東北公益文科大学教授)
『情報交換会』
座長：矢口 明子 (酒田市副市長)

登録団体の皆さんが、これまで以上に男女共同参画の視点を持って活動をしていただけるように「ウィズ登録団体 研修会・情報交換会」を開催しました。



デートDV防止講座

参加総数 353人

『お互いを大切にする関係とは』

講師：岸井 綾子 氏 (庄内ちえりあ)

- ① 9/7(月) 酒田市立酒田看護専門学校
- ② 12/10(木) 山形県立酒田光陵高等学校

男女共同参画社会づくりの一環として、深刻な社会問題にもなっているDVについて、学生を対象に防止を目的とした講座を開催。今年度は、二校と共催しました。



出前講座

団体名：48区老友会

8月28日(金) 参加者15人

『コロナに負けない！おうち時間を楽しく心地よく』～家事シェアで新たな日常へ～

ゲームや講話を通して家庭内の役割分担を考える講座を開催。参加者は、「女性(男性)だからこうあるべき」という「当たり前」を見直すきっかけになりました。



出前講座

団体名：酒田人権擁護委員会

11月9日(月) 参加者29人

『ジェンダーについて』

ジェンダーについて一緒に考え、議員や管理職の女性の割合など、私たちのまちの現状はどうなっているのか確認しました。ジェンダークイズやワークでは、皆様から活発な意見が出され、ジェンダーについてさらに理解を深めることができました。



『家族みんなが笑顔になる“家事シェア”のススメ』 を発行しました！



自分たちのおうちでは、いつ、だれが、どんな家事をしているだろう？・・・と考えてみたことありますか？
 「家事シェア」は以前と比べて進んできてはいますが、まだまだ一方で「私だけ大変！」「うちの夫（妻）は全然やってくれない！」という声も多く聞かれます。このような生きづらさを解消するには、家事を「家族みんなの仕事」として捉え、誰かが我慢をしなくてもよい関係性を作っていくのが理想的かな、と思っています。

自分たちの生活スタイルに合う「家事・育児シェア」の形を家族で話し合い、楽しく考え、今日から始めてみませんか。男性も女性も、お互いが個人として尊重し合い、得意なこと、好きなことを活かしながら、ストレスなくできるところから始めてみましょう。



「家事シェアのススメ」のパンフレットは、ウィズ講座等で配布する他、結婚・出生の届出をされた市民の方にもお渡ししています。

またミニ講座として妊産婦の教室「マタニティ教室 B コース」や子どもの健診「3 か月児健康診査」の中で紹介をしています。



ミニ講座の様子

※「家事シェアのススメ」のパンフレットは、ウィズのHPからダウンロードできます。

酒田市地域創生部 地域共生課 男女共同参画係
 男女共同参画推進センター **ウィズ**
 開館 月～土 : 9:00 ~ 22:00
 日・祝 : 9:00 ~ 17:00
 相談 月～金 : 9:00 ~ 16:00 (祝日除く)
 〒998-0044 酒田市中町三丁目 4-5
 交流ひろば内

ウィズのHPに
 アクセスできます



Tel : 0 2 3 4 (2 6) 5 6 1 6
 Fax : 0 2 3 4 (2 6) 5 6 1 7
 E-mail : with@city.sakata.lg.jp

